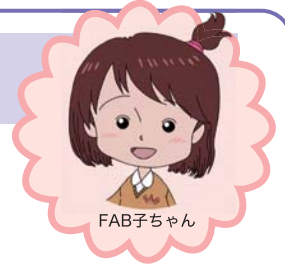


平成29年度「おおいた女性活躍推進事業者表彰」を受賞しました 他	1
第七回 中塚医学賞に2名の女性研究者が選ばれました 他	2
平成29年度JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム事業	3
活動報告 他	4

平成29年度「おおいた女性活躍推進事業者表彰」を受賞しました



大分県が男女共同参画社会づくりを推進するため、その功績が優れている事業者に対して今年度から実施する「おおいた女性活躍推進事業者表彰」の栄えある第1回目を、大分大学が受賞しました。



知事より表彰を受ける松浦副学長

本学は、経済団体と大分県が連携し発足した「女性が輝くおおいた推進会議」に参画し、女性が働きやすい職場づくり、環境整備などについて目標を設定し、取り組むための「女性活躍推進宣言」を行っています。その取組内容が優れているとの評価を受け、表彰を受けることとなりました。

平成30年3月22日(木)大分県庁にて行われた表彰式では、広瀬知事から松浦恵子副学長(ダイバーシティ担当)に表彰状が授与されました。



懇談会での一幕

表彰式後の懇談会では、松浦副学長から、「本学は教職員・学生が男女等しくその能力を十分に発揮して活躍できる大学をめざしています。この栄誉を励みとして、さらに取組を推進し、地域に貢献します。」と謝辞がありました。

文部科学省平成29年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に大分大学が九州で初めて採択されました！

この事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の復帰・復職支援及び女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組を支援するものです。

「牽引型」では、大学や研究機関が企業等と連携し、その他の機関を含めた地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取組を実施するものです。

共同実施機関と協働して、女性研究者・技術者をリーダーとした産学連携研究を展開し、本学及び共同実施機関の既存の男女共同参画推進体制を産学連携型のダイバーシティ推進体制へとその機能を強化します。また、地域の企業、関係団体等が単独の組織ではできなかった新しい価値を生み出すダイバーシティ推進の仕組みを確立することを目的とし、さらに、この仕組みに参入する企業数を増やすことを目指します。

事業期間は、2017年から2022年度の6年間です。

おおいた連携ダイバーシティ推進会議



(共同実施機関)

大分工業高等専門学校, フンドーキン醤油(株), 三和酒類(株), 三井住友建設(株)

(協力機関)

住友化学(株)大分工場, 大分キヤノンマテリアル(株)

第七回 中塚医学賞に2名の女性研究者が選ばれました

平成29年10月2日(月)、第七回 中塚医学賞表彰式および受賞者セミナーが行われました。

本賞は、大分大学医学部における若手研究者の研究の活性化及び進展を図ることを目的として設けられたものです。

今回は、研究サポーター事業利用実績のある、産婦人科学講座 平川 東望子先生が生命科学・医学専門分野に、実践看護学講座 脇 幸子先生が看護学専門分野に選ばれました。

特に平川先生は、直近まで事業を利用されていたということもあり、受賞者セミナーの最後に男女共同参画推進室への謝辞も述べられました。



受賞者のみなさま

産婦人科学講座 平川 東望子先生 受賞コメント



平川 東望子 先生

光栄なことに第7回中塚医学賞を受賞することができました。大学院医学系研究科博士課程の修了論文を評価していただきうれしく思います。周囲の方の支えとご指導、そして男女共同参画推進室の研究サポーター事業のご協力のおかげでこのような業績を残すことができました。勤務

時間が限られている子育て中の医師が研究をするにあたって、研究サポーターは非常にありがたい存在ですので多くの方におすすめてほしいです。大学院を修了した今、研究が臨床にプラスの影響をもたらすことを実感しています。これからも周囲の役に立てているかいつも自問しながら、そして感謝の気持ちを忘れず研究と臨床を両立していきたいと考えています。

実践看護学講座 脇 幸子先生 受賞コメント



脇 幸子 先生

看護職に就いてから、たくさんの人々と出会い、生きることのありがたさと難しさを感じながら、看護専門職として私にできることは何か、人々の健康をいかに護るかを考え続け、セルフケア支援！にたどり着きました。専門職としてのアイデンティティを試行錯誤しながら積み重ねてきたこの節目で、身に余る光栄な賞を頂き、たくさんの人に感謝しています。

本研究から、知識を獲得するだけでは、病気を自分らしく、自己管理する原動力は得られないことが証明され、セルフケアの自己評価を促すことがセルフケア能力を高め、有用であると考えています。これからも、人々のセルフケア能力、生きる力をよりその人らしく高めていけるように、実践と研究を積み重ね、学習の4本柱をモットーに邁進していきたいです。

Learning to know <知ることを学ぶ> Learning to do <為すことを学ぶ> Learning to live together, Learning to live with others <共に生きることを学ぶ> Learning to be <人間として生きることを学ぶ>

平川先生、脇先生の今後益々のご活躍をお祈りいたします。

《ダイバーシティトップセミナーを開催しました》平成29年12月18日(月)

平成29年12月18日(月)、旦野原キャンパス事務局棟第2会議室にて、株式会社キャリアン代表取締役、公益財団法人日本生産性本部 ダイバーシティ推進センター長 河野真理子さんを講師にお招きし、「経営と人材戦略の観点から考えるダイバーシティの重要性」という演題で、ダイバーシティトップセミナーを開催しました。

講演会では、①経営を持続させるためには、人材を最大限に活かすことが重要であること、②研究者・職員・社員の活躍を促進するためには、ダイバーシティ経営が必要であること、③多様な人材の実情を把握して現場で活かすためには、管理職のダイバーシティ・マネジメントが必要であること、これらについて話されました。



《男女共同参画入門》平成29年11月8日(水)

男女共同参画推進室では、全学部生を対象に、後期教養教育科目「男女共同参画入門」をオムニバス形式で開講しています。今年度は、そのひとつに、現在大分県佐伯市において地域社会の活動で活躍されている東京大学大学院客員研究員の岩佐礼子さんを講師に招き、国連での活動経験をもとに「多様性から見つめ直す日本と自分」とした講義を行いました。

高校時代にアメリカ留学を経験、その後2年間留学したジュネーブ州立大学で、留学生や、国連機関で働く職員の妻たちなどが学んでいたことから、留学中に国連職員を目指すようになり、厳しい研修をクリアし国連職員として派遣されたアフリカのウガンダでは、十数年前に既に地方議員の3分の1を女性が、若者や障がい者も選出されるしくみがあり驚いたそうです。最後に、自分の可能性を試し、自分自身の多様性を育てようという力強いメッセージがありました。



母と娘のこころを揺さぶる現場体験 —躍動するリケジョとの『一生わすれない』能動学習

男女共同参画推進室では、今年度も昨年度までの活動を継続して、ものづくり理工系分野へ進学する女子生徒を増やす様々な取組を行いました。

☆出前型の男女共同参画入門講義つき理系女性研究者との座談会☆

佐賀大学と大分大学の男女共同参画推進室は連携して、母と娘そして進路指導の教諭へ、①女性教員による男女共同参画入門の講義、②女性研究者による理系研究の魅力発信、③就職担当の理工学部男性教員による女子就職の変遷についての出前講義型講演会と座談会を平成27年度から開始しています。今年度は、大分市立賀来小中学校、大分県立佐伯鶴城高等学校、九州産業大学付属九州高等学校、長崎県立壱岐高等学校、佐賀県立致遠館中学校・高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校で開催し、約320名の参加がありました。



理系の楽しさを伝える実験を行いました



大分県立佐伯鶴城高等学校



女子高校生との座談会

☆ものづくり実験体験会☆

2017年9月23日(土)、大分工業高等専門学校にて、中学生を対象とした実験体験会が開催されました。大分高専機械工学科による「金属加工でアクセサリを作ってみよう」、電気電子工学科による「フレミングとMr.電気」の2講座に、中学生16名、保護者8名の参加があり、ものづくりの楽しさに触れていただくことができました。それぞれのプログラム終了後、女性技術者として活躍している高専OGによる講演会がありました。



アクセサリ製作



講演する箕井 梨乃さん

小石原川ダム付替国道1号橋工事で活躍する ☆女性技術者訪問バスツアー☆

2017年12月9日(土)、大分県内の女子中高生と保護者を対象に、小石原川ダム付替国道1号橋工事で活躍する、女性技術者訪問バスツアーを開催しました。昨年に引き続き第二弾となるこの現場訪問バスツアーでは、三井住友建設株式会社の女性技術者である河村有紀さんから、業務内容や就職した動機を教えてくださいました。現場見学では、掘削工事を原理から学べたり、建設途中段階の橋脚を間近に見学できたり、どれも貴重で、大変充実したひとときとなりました。



工事現場を間近に見学する参加者



女子中高生の質問に答える河村有紀さん

☆理工学部の実験体験会☆

2017年12月9日(土)、大分県内の女子中高生と保護者を対象に、理工学部の機械コースと電気電子コース、応用化学コースの「ものづくり実験」を体験してもらう実験体験会を開催しました。

今年度は、ロボット制御プログラムや3Dプリンタ、VR(バーチャルリアリティ)システム、ドローン実演を体験する機械コース、電子工作とプログラミングに挑戦する電気電子コース、インジゴの合成とミニトートバッグの建築めに挑戦する応用化学コースを、女子中高生20名、保護者10名が体験し、理系分野の魅力に触れました。



VR(バーチャルリアリティ)体験



電子工作とプログラミング



ミニトートバッグのインジゴ染め

「未来創発に向けたNRIのダイバーシティ～輝くあなたの未来のために～」

2017年1月26日(金)、旦野原キャンパスにおいて、大分県内の女子中高生の保護者や企業関係者を対象に、株式会社野村総合研究所(NRI)人材開発部ダイバーシティグループグループマネージャーの太田百合子さんをお招きし、「未来創発に向けたNRIのダイバーシティ～輝くあなたの未来のために～」というタイトルでご講演いただきました。この講演会には、本学学生や教職員も参加し、当日は約70名の参加がありました。

講演では、女性の活躍なしに企業の発展はないとし、社員の意見を積極的に反映して、社員一人ひとりが活躍し続けることができるように制度の見直しや、多種多様なミニイベントを開催しているNRIの先進的な取組について話されました。

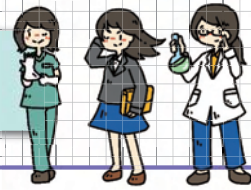
講演後の意見交換会では、職場における相談窓口の周知の大切さや、目指すキャリアは状況に応じて変えて良いこと、努力して得た能力はどの道に進んでも無駄にはならないことなど、キャリア教育に関しても役立つ貴重なアドバイスもいただき、大変実りのあるひとときとなりました。



以下のサイトでは、より詳細なイベント報告記事を掲載しています。ぜひご覧ください☆



イキイキ! 理系女子♡(大分大学リケジョ応援サイト)
http://www.rikejo.oita-u.ac.jp/rikejo_wpv1/



オープンキャンパス同時開催 「女性研究者と語ろう」

2017年
8月10日(木)

2017年8月10日(木)、「女性研究者と語ろう」をオープンキャンパスに併せ、旦野原および挾間の両キャンパスで開催しました。旦野原キャンパスでは大学院生が、挾間キャンパスでは女性研究者や附属病院で勤務する現役の女性医師たちが、オープンキャンパスに参加した高校生や保護者の方々と歓談しました。



勉強の仕方や入学後の進路について医師たちにアドバイスをもらう母娘

タイの理系女子(リケジョ) 11名を含む13名の高校生との交流会

2017年
10月13日(金)

「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」(「さくらサイエンスプラン」)に大分大学医学部とタイのSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)の高校生との交流事業が採択され、2017年10月10日から17日にタイのリケジョを含む高校生13名と引率教員1名が大分大学を訪れ、そのうちの13日に大分大学の研究者との交流会を行いました。タイの高校生たちの熱心に勉学に励む姿勢と気さくで明るい人柄のおかげで、今年度も大変盛り上がり、楽しい交流会となりました。



留学生との交流楽しむタイの女子高校生

第9回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡

2017年
9月25日(月)

2017年9月25日(月)、福岡女子大学にて、「第9回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡」が開催されました。本学から松浦恵子副学長がパネリストとして出席し、考える女性リーダー像や女性リーダー育成のための取り組み、そして、女性リーダー育成のための今後のプランなどについて紹介しました。



本学の取組について説明する松浦副学長(左)

大分大学開放イベント2017 「女性研究者の学会派遣報告展示」

2017年
11月5日(日)

2017年11月5日(日)の大分大学開放イベント 2017 の企画として、「女性研究者の学会派遣報告展示」を開催しました。男女共同参画推進室が行っている学会派遣支援を受けた女性研究者が学会で発表した研究内容、学生生活について作成したポスターを展示し、来場された地域の方や中高生などからの疑問や質問に答えました。



協力してくれたみなさま

【支援・補助事業のご紹介】

● 研究サポーター事業について ●

育児や介護で研究時間の確保が難しい研究者の方が、研究の補助者(研究サポーター)の支援を受けることのできる制度です。ワーク・ライフ・バランス(やりがいのある仕事を持ちつつ、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択でき、仕事と生活とが調和すること)の実現によって、研究活動が一層活性化することを目指します。女性研究者だけでなく男性研究者も、また研究分野の文系・理系を問わず、申請し利用することができます。

● 学会派遣支援事業について ●

女性研究者のスキルアップ及び女性大学院生のキャリア形成を支援し、研究へのモチベーションの向上や研究の活性化を促進することを目的として、学会派遣支援を行っています。

● 育児支援サービス補助事業について ●

ベビーシッター利用料、ファミリー・サポート・センター利用料の一部を補助する、育児支援サービス補助事業を実施しています。利用にあたっては、事前に利用申請書を提出し、承認を受けた後に利用開始となります。

※支援や補助の対象などの利用条件は、FAB ホームページをご覧ください。